

奈良市まちづくり市民会議
各分科会発表資料

奈良市まちづくり市民会議 各分科会発表資料

目 次

1 各分科会が考えた「テーマ別将来像」

第1分科会(テーマ:生きやすいまちづくり)	2
第2分科会(テーマ:魅力を生かすまちづくり)	6
第3分科会(テーマ:活気あるまちづくり)	10
第4分科会(テーマ:人をつくるまちづくり)	14
第5分科会(テーマ:住みやすいまちづくり)	18
第6分科会(テーマ:市民と行政とのまちづくり)	23

2 各分科会が考えた「奈良市全体の将来像」

第1分科会.....	29
第2分科会.....	35
第3分科会.....	37
第4分科会.....	40
第5分科会.....	43
第6分科会.....	46

1 各分科会が考えた「テーマ別将来像」

第1分科会

生きやすいまちづくり

井上 雅由、木村 宥子、熊野 磯一
田中 浩、本間 香貴、吉住 秀
2010/3/29 (月)

生きやすいまちづくり



いつまでも子や孫が

笑顔で暮らせるまち

第1分科会

背景(現状と課題)

- 自然破壊(西部)
- 老後・子育て
- 子育て支援
- 若者が出て行く
- 医療体制
- 格差、財政
- 犯罪増加・凶悪化

- 自然環境(東部)
- 平和が似合う
- 文化財、観光資源

幸せに
暮らせる
まちは？

第1分科会

生きやすいまちづくり 将来像

いつまでも、
子や孫が笑顔で暮らせるまち
将来もみんなが幸せな社会

平和のネットワーク

安心安全
いのちを大切にする

市民が自ら行動

第1分科会



生きやすいまちづくり **将来像 1** いやすひまち子孫が笑顔で暮らせるまち

【平和のネットワークつくる】

- 「平和」が暮らしやすさの前提
- 「平和」で世界と繋がる
- 「平和」の大切さを発信する

< 世界中の武器を廃絶する 奈良から発信 >

>

第1分科会



生きやすいまちづくり **将来像 2** いやすひまち子孫が笑顔で暮らせるまち

【安心、安全でいのちを大切にする】

- 多様性を認める社会・教育
- 弱者に優しい
- 子(授かったいのち)をみんなで育てる
- ネットワーク、コミュニティ

< 医療費無料、教育費無料、最低生活保障 >

第1分科会



生きやすいまちづくり **将来像 3** いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち

【市民自ら行動する】

参画・協働・協力・共生

自立・自己責任

= 自分のことだけを考えるのではない
生涯、元気に働く

< 市民が施策・事業決定に参加できる仕組み >

第1分科会



生きやすいまちづくり **将来像**

いつまでも

子や孫が

笑顔で暮らせるまち

第1分科会

生きやすいまちづくり



いつまでも子や孫が

笑顔で暮らせるまち

第1分科会

第2分科会

魅力を生かしたまちづくり

上野 登統、榎本 正範、小西 完治、
澤崎 嘉造、谷 幸三、中川 徹、
橋本 光男、濱 朝子、春田 稔、
山本 善徳

テーマ別将来像

『時を超えた歴史と自然を
守り、活かし、伝えるまち』

背景(現状と課題)

奈良市の魅力を取り巻く問題

【目に見えるもの】

歴史的建造物、埋蔵文化財、まちなみ、
伝統的行事、自然環境

【目に見えないもの】

先人の思い(おもてなしの心、平和への思い)
積み上げてきた歴史そのもの

背景(現状と課題)

奈良市の魅力を取り巻く問題

“点”として存在

➡ 魅力同士のつながりがわかりづらい
市全体の魅力につながっていない。

市民や来訪者が魅力をわかりやすく知ることができる環境が整っていない

時代とともに資源が失われている

未だ魅力として認識されていないものもある

大きな
要因

皆が、今ある資源を当然のことと捉え、
恩恵と感じていない

このテーマについて私たちの考える将来像

『時を超えた歴史と自然を
守り、活かし、伝えるまち』

- ▶ 皆が魅力を知り、その恩恵を感じるまち
- ▶ まち全体が魅力にあふれるまち

テーマ別将来像が
実現すると…

人々の
思い 奈良に
「行きたい」➡「泊まりたい」➡「住みたい」

上記の人々が増えると…

奈良市 人口の確保・産業の活性化
財政の健全化

このテーマについて私たちの考える将来像

皆が魅力を知り、その恩恵を感じるまち

- ▶ 資源が**再確認・再発見**されている
 - ↑ { 古い文献・地図を読み解く
 - { 専門家・外国人等の目を通す
- ▶ 魅力が**わかりやすく伝えられている**
 - ・未来を担う子ども達
 - ・奈良市に誇りをもつ市民が
 - 国際交流・情報発信

このテーマについて私たちの考える将来像

まち全体が魅力にあふれるまち

- ▶ 再確認・再発見された資源を
 - ・その周囲も含め、**守られる**
 - ・必要に応じて**整備**
 - (REデザイン) する } → **守り、活かす**
- ▶ 先人の思いから心のあり方も学び、**活かす**
 - 市民の心住み働くことに誇りを持ち、
 - 訪れる人をもてなす心をもつ
 - (= 魅力になる)

テーマ別将来像

『時を超えた歴史と自然を
守り、活かし、伝えるまち』

第3分科会

活気あるまちづくり

赤尾 隆、阿部 智子、佐藤 正幸、
新堂 順規、友田 達郎、長谷川 庸司
畑中 忠司、松森 重博、吉田 俊夫
寮 美千子

テーマ別将来像(コンセプト)

『観光ビジネスモデルの創造で
奈良に活気あるまちづくりを実現する』



背景(現状と課題)

市民は笑顔・満足？

日常生活には満足しています。
しかし
将来の生活に対する不安が拭えず
元気が見えません。

奈良市の将来発展に向けた実行計画
に加えて
市財政健全化を期待しています。

<慢性化した大いなる課題>

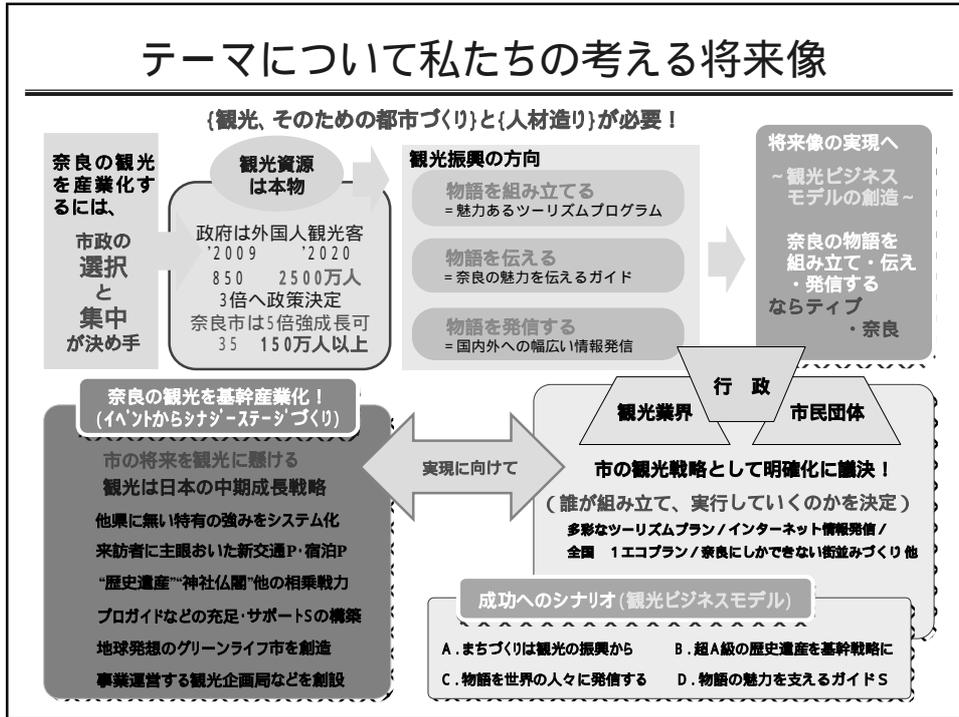
- ・市の戦略会議事業には実現力が混迷
- ・負債が3000億円にも膨大化し市民は超不安
- ・発展には成長産業の創出が急務です！

奈良市に夢と希望
と輝きを！

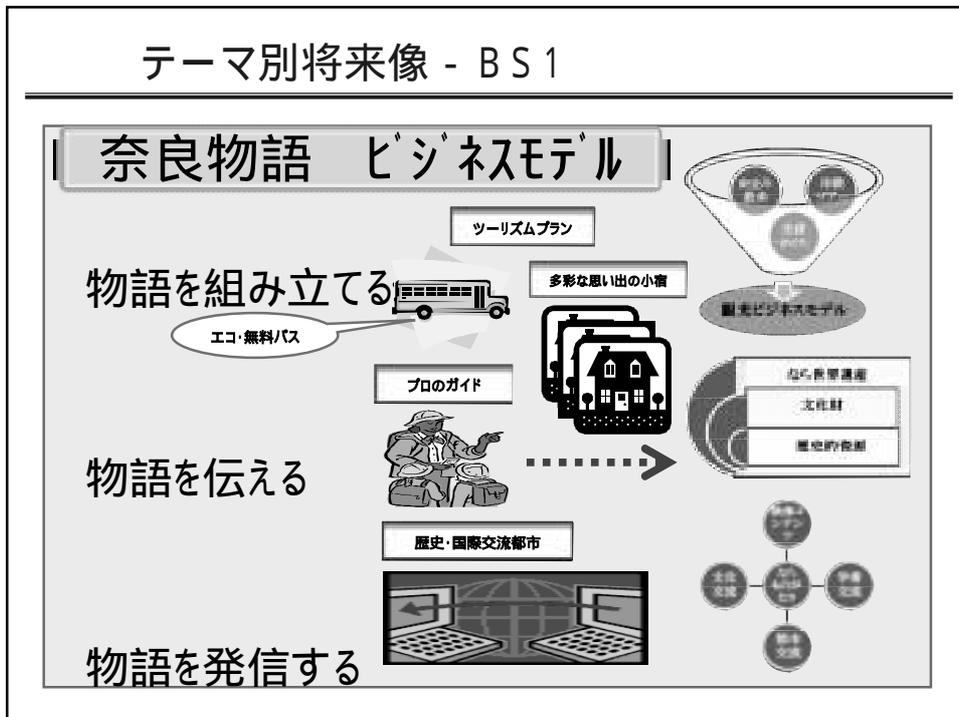
例えば、東京ディズニーランド
東京ビッグサイト
北海道旭山動物園

奈良市に成長産業
は存在するのか？

テーマについて私たちの考える将来像



テーマ別将来像 - BS1



テーマ別将来像 - B S 2

国際観光都市・奈良をめざす！

- ・歴史遺産は第一級なのに、観光はそれを活かしていない
- ・物館を組み立てる（魅力あるツーリズムプログラム）
- ・物館を発信する（国内外への幅広い情報発信）
- ・物館を伝える（奈良の魅力を伝えるガイド）
- ・観光の真の産業化が必要である

ならティブ・奈良
～観光ビジネスモデルの創造～

ならティブ = narrative = 物語を伝える

【観光ビジネスモデル：アイデア集】

ツーリズムプラン	情報発信	街並みづくり	エコプラン	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・ツアーセットに交通・体験等を加味 ・ゴールドカード（交通無料バス） ・シルバーカーカード（修業認定証） ・多様な宿泊プランの組み込み（朝を大切に） ・設備投資なしのプログラム 夜：屋台・夜市、朝：朝市・散歩 ・若者プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に奈良のイメージ戦略「祈りの奈良」など ・奈良の保有知識や財産の県外・国外への売り込み ・映像コンテンツの整備 ・若者プログラムの発信 ・海外への発信強化（外国語メディア） ・国際会議の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコタウン・モデルタウンなど西部地域も含めて構築 奈良のまちのイメージづくり ・工芸村等の創出 ・大学との連携強化 ・西部地域の商業拠点化による観光との結合 ・歴史的まちなみ・通りの保存及び整備 ・コミュニティ民俗資源（講・伝統行事など）の活用 ・環境美化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光に供する交通のエコ化（電気自動車、自転車など） ・エコ都市宣言・エコタウン創造 ・観光地のエコ化（ゴミ排出抑制、省エネ、バリアフリーなど） ・寺社等でのエコ生活体験プログラム ・観光公害の排除 ・環境の保全 ・観光化と市民の住みよい奈良を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民目線の観光イメージづくり ・NPO等の民間活動の観光への参画・組み込み ・市民自らの多方面にわたる観光（奈良の魅力）発信 ・コミュニティレベルでの観光客受け入れ整備（中国での接待所、イギリスでのヘリテージセンターなど） ・その他

テーマ別将来像 - B S 3

<蘇える都市へ奈良のシナジーステージづくり>

観光産業を主要産業化戦略 活気ある奈良の町づくりを目論む！

narrative
(新生観光局)
が事業運営



ありがとうございました。

奈良市に夢と希望と輝きを！

そして

活気ある町づくりの実現を！

(これらが総合計画に反映されますよう)

よろしく申し上げます。

第4分科会

人をつくるまちづくり

アダルシュ・シャルマ、 岡本胤継、
奥村 麻希子、北 良夫、 小島 道子、
笹部 和男、 高松 典正、 宮本郁江、
森口 哲也、 山本 素世

テーマ別将来像

『世代を超えて
市民が力を出し合い、
つながりを育むまち』

背景(現状と課題)

社会的背景

- ▶ 少子高齢化の急速な進行
- ▶ 税収の減少による財政難

地域・学校・行政の課題

地域

地域力の低下、住民の協力関係の減少

学校

学校現場に余裕がない

地域とのつながり減少

行政

財政悪化、多様な地域ごとの課題

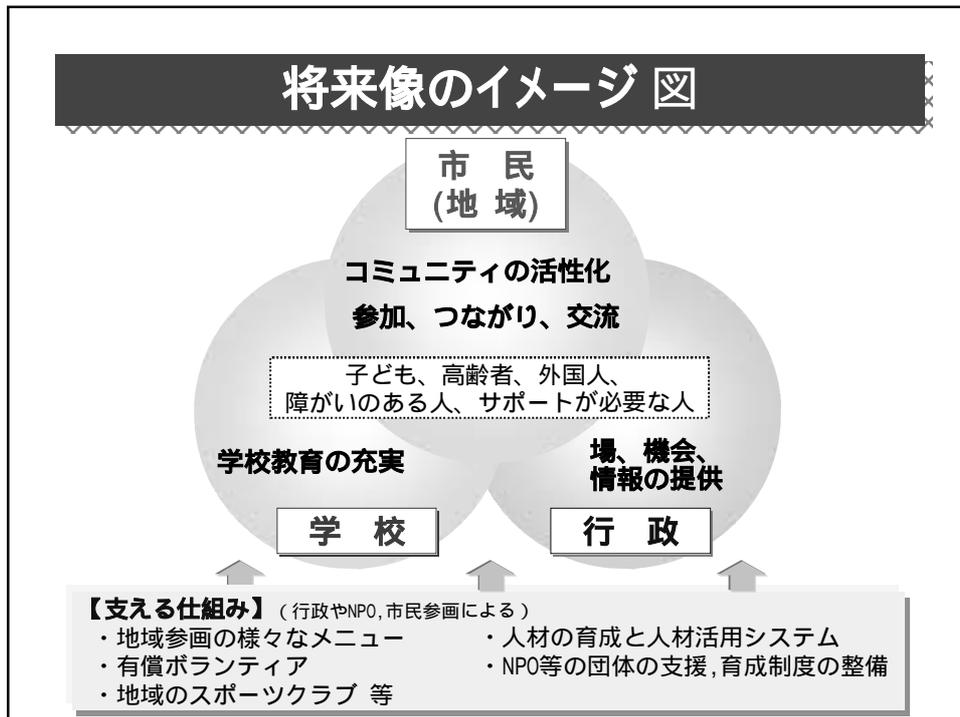
公共サービスを従来通り提供するのは困難

このテーマについて私たちの考える将来像

**世代を超えて市民が力を出し合い、
つながりを育むまち**

- 地域のつながりを実感できるまち
- 子どもを育むまち
- 市民が力を出し合えるまち

将来像のイメージ 図



実現するための主な取り組みアイデア

地域のつながりが実感できる	子どもを育む	市民が力を出し合える
<ul style="list-style-type: none"> ● 廃止予定の施設や空き教室を地域拠点に活用 ● 高齢者の社会参加の仕組みづくりと条件整備 ● 地域で多世代が交流できるスポーツクラブを持てる制度などの検討 ● 地域に若い世代が住みやすくするために、家賃補助や住宅整備を進めるなど、多世代が混住できるような仕組みづくり ● 学区ごとの福祉委員会制度の検討 ● 分野別のリーダーの発掘 ● 各組織、団体が連携できる拠点や場づくり ● グリーンサポート制度、アダプトプログラム推進事業の活用 ● あらゆる人が、日常的に交流できる楽しい行事や仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公立学校の教育環境の向上と体制の整備 ● 学校現場の声が行政に届く仕組みづくり ● 小学校の英語専科教員の配置、小中学校の特別支援教員の増員 ● 子どもが人間関係を構築できるように、ソーシャルスキルを学ぶ機会を確保 ● 子ども自身が地域を考える子ども評議員制度の検討 ● 学校支援協議会を設立し、地域で学校を支援する制度の検討 ● 子育てについて、相談しやすく、助けあえる仕組みづくり ● 放課後の子どもの居場所づくり ● 奈良っこを育むプログラムづくり ● 子どもの体力増進のために、スポーツの機会の確保・設備の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校区単位の市民自治協議会の設立が可能な条例の検討 ● 地域活動のための市民コーディネーターの育成 ● 福祉分野での生活援助をはじめ、様々な分野で有償ボランティアを広く活用 ● 小学校区ごとに、拠点とリーダー専任スタッフをおき、住民と地域づくりができる仕組みづくり ● 育成された人材活用のために人材登録制度を充実 ● NPOなどの市民団体を育て、支援する仕組みづくり ● 市民が市政の担い手であることを意識できるような仕組みづくり ● 市民が市域全体で対話できる場づくりの検討 ● プロサッカーチームなど市民が一体となれるスポーツの振興

テーマ別将来像

『世代を超えて
市民が力を出し合い、
つながりを育むまち』

第5分科会

住みやすいまちづくり

北浦 由香、 北野 剛人、 サマン ペレラ、
四反田 喬典、 田北 ますみ、 反田 博俊、
中西 輝、 濱 恵介、 松永 洋介

テーマ別将来像

『歴史と未来、都市と田園が 共生する奈良』

背景(現状と課題)

「住みやすさ」の基本的な要素

一般的な「住みやすさ」

居住性、利便性、安全・安心など

+

本分科会がさらに必要と考える「住みやすさ」

- ◆ 地区ごとに個性的で美しいこと
- ◆ 歴史遺産や自然が大切にされていること
- ◆ 市民が奈良に誇りをもてること

住みやすいまちが実現するだけでなく、

持続可能であることが大切

背景(現状と課題)

持続可能なまちをつくるためには、
まず環境共生のまちづくりが必要

近年の問題

地球温暖化、自然破壊、水質汚染 など



「都市(人工的)」と「田園(自然的)」が調和し、共生する
「環境共生」のまちづくりが必要

このテーマについて私たちの考える将来像

『歴史と未来、都市と田園が
共生する奈良』とは

過去・現在・未来の継続性
「持続可能性」(時間軸)

人工と自然が調和
「環境共生」(空間軸)

『歴史と未来、都市と田園が共生する奈良』

- ◆環境的持続可能性
 - ◆文化的持続可能性
 - ◆社会的持続可能性
 - ◆経済的持続可能性
- 本分科会で検討
- 他分科会で検討

このテーマについて私たちの考える将来像

環境的に持続可能なまち

『人工と自然の調和』

◆「コンパクトシティ」の形成

- ・現状の市街地の維持
- ・ストックを生かした再整備
- ・歩行者主体の公共交通システム
(脱マイカー依存)

◆新たなエネルギーの利活用

- ・太陽光・太陽熱などの活用
- ・木質バイオマスの利用

このテーマについて私たちの考える将来像

文化的に持続可能なまち

『土地・時間・人がつくる価値の向上と継承』

- ・先人が築きあげてきた奈良の独自性の尊重
- ・歴史的まちなみの保全・街路景観の改善
- ・地区ごとの特性・個性が活かされたまちづくり
- ・市民の誇り(シビックプライド)の確立

このテーマについて私たちの考える将来像

社会的に持続可能なまち

『多様な人々の関係性の展開・継続』

- ・多様な人々、ライフステージに対応した
安心な暮らし
- ・まちと家は世代を超えて住み継がれる
- ・防災安全、安心・福祉の充実(地域で支える)
- ・多様で活発な地区間交流(都市と里山など)

テーマ別将来像

『歴史と未来、都市と田園が
共生する奈良』

第6分科会

市民と行政とのまちづくり

植田 正博、武村 俊宏、多田 充朗、
田中 保夫、村田 勝彦、元島 満義、
渡邊 新一

テーマ別将来像

『市民と行政が協働する、
健康的な財政による
まちづくり』

背景(現状と課題)

財政の健全化の必要性と課題

- ◆ 厳しい財政状況 (債務残高約3,141億円 平成20年度末)
= 次代を担う子どもたちを取り巻く環境が大きな危機

財政の健全化 民間感覚の導入

職員一人ひとりの意識改革
「奈良良市行財政改革大綱の実現」

背景(現状と課題)

市民と行政の協働の意義と課題

あらゆる主体が奈良市の明るい未来を
切り開いていくための条件

市民	× 要求・批判・評論 自らの幸せ・公共利益の主体的検討
行政	職員は市民(民間)感覚を備える ➡ 健全な財政、効率的な行政運営を実現
企業	奈良市のまちづくりにも貢献

背景(現状と課題)

市民と行政の協働の意義と課題

市民

行政



利益の確保
まちづくり
への貢献

市民・行政の協働は
必要不可欠

▶市民・行政の相互理解

対立的なものとしての理解からの脱却
”協働“の視点

▶市議会のあり方も絶えず議論・検証

このテーマについて私たちの考える将来像

『市民と行政が協働する
健康的な財政によるまちづくり』とは

- ◆まちづくりのあらゆる主体が協働する
- ◆健全な財政が維持できる

↓ 目指す先は…

奈良の文化 世界に誇れる文化を未来に引き継ぎ、生かす

奈良のまち 世界に開かれた、多様性に富み、持続的発展が可能な住みよいまち

このテーマについて私たちの考える将来像

まちづくりのあらゆる主体が協働するまち

市民	主体的、積極的な 公益活動	公共的な 課題解決 のため 共に 取り組む	市政に参画
公共公益 活動団体			
事業者			
学校			
行政			市民参画の受入

このテーマについて私たちの考える将来像

健全な財政が維持できるまち

行政

- ・必要な投資が適切に実行できるまち
- ・より条件の良い資金を調達
- ・無駄の排除、金利の交渉、保有資産の処分等
- ・積極的な広報・情報公開

市民

- ・財政に関する知見を深める
- ・まちづくりを通じて社会基盤の維持等に努力

テーマ別将来像

『市民と行政が協働する、
健康的な財政による
まちづくり』

2 各分科会が考えた「奈良市全体の将来像」

第1分科会が考える

市全体の将来像

井上 雅由、木村 宥子、熊野 磯一
田中 浩、本間 香貴、吉住 秀
2010/3/29 (月)

奈良市全体の将来像



いつまでも
笑顔あふれるまち奈良

第1
分科会

奈良市全体の将来像



市全体の将来像を描く観点

“人”と“幸せ”に焦点をあてる

“人”が“幸せ”な生活を営むとは

“どんな”生活か？

“何”があれば良い？

第1
分科会

奈良市全体の将来像



人々が幸せな生活

“生きやすい”

“子どもが健やかに育つ”

“多様な人々の協働”

“共生している”

第1
分科会

奈良市全体の将来像

人々が幸せな生活

いつまでも
笑顔
あふれるまち
奈良

第1
分科会

奈良市全体の将来像

“自分の世代”

いつまでも幸せ



第1
分科会

奈良市全体の将来像

“親の世代”

いつまでも幸せ



奈良市全体の将来像

“子どもの世代”

いつまでも幸せ



奈良市全体の将来像

“世代を超えて”

いつまでも幸せ

第1分科会

奈良市全体の将来像

持続可能な社会：Sustainable society

いつまでも
笑顔
あふれるまち
奈良

第1分科会

奈良市全体の将来像



共生する鳥と人



健やかに育つ子ども達



どちらが幸せか



多様な世代の協働

奈良市全体の将来像



いつまでも

笑顔あふれるまち奈良

第1
分科会

第2分科会が考える

市全体の将来像

上野 登統、榎本 正範、小西 完治、
澤崎 嘉造、谷 幸三、中川 徹、
橋本 光男、濱 朝子、春田 稔、
山本 善徳

奈良市全体の将来像

『はじまりの都
- 世界あこがれの都市へ』
まち

奈良市全体の将来像を考えた理由

日本人の心の源(みなもと=はじまり)となるような歴史文化遺産・風景
平城京、多くの神社・寺院

平城京 = 天平文化、国際交流都市として大きく発展
現在の奈良市「国際文化観光都市」のはじまり

市全体
将来像

『はじまりの都 - 世界あこがれの都市へ』

将来の奈良市が、
日本や世界から、
どのような都市と
見られたいかを表現

・まちの魅力が向上して、
日本だけではなく、
世界があこがれをいだけ
国際都市へ

奈良市全体の将来像(その他の提案)

平城京は、実質的な日本のはじまりの都(日本独自文化・国際交流の発展)と捉える

『日本はじまりの都 - 世界あこがれの都市へ』

日本最初の都は藤原京という通説を踏まえ、「はじまりの都」は使わない将来像がよい

『世界に誇る、歴史・文化・自然を活かす、
豊かなまち 奈良』

『ゆったりと時の流れをつむぐ都市』

奈良市全体の将来像

『はじまりの都
- 世界あこがれの都市へ』
まち

第3分科会が考える

市全体の将来像

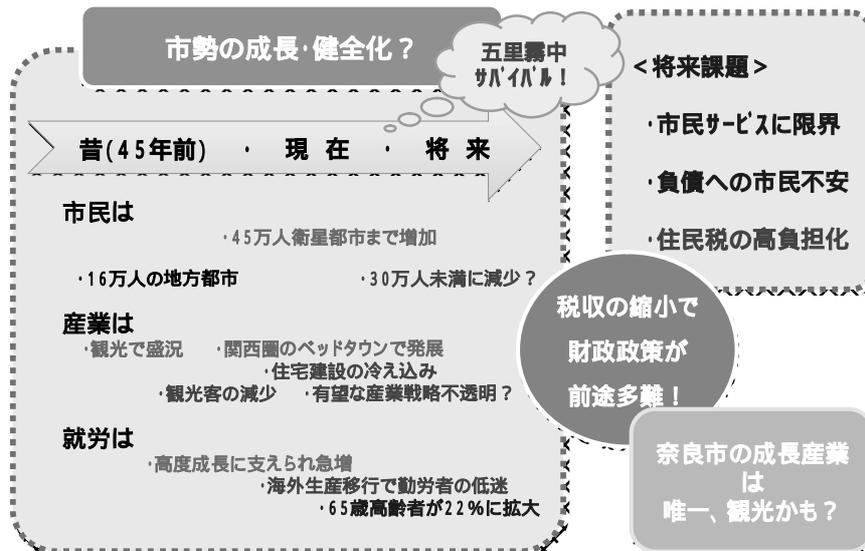
赤尾 隆、阿部 智子、佐藤 正幸、
新堂 順規、友田 達郎、長谷川 庸司
畑中 忠司、松森 重博、吉田 俊夫
寮 美千子

奈良市全体の将来像(コンセプト)

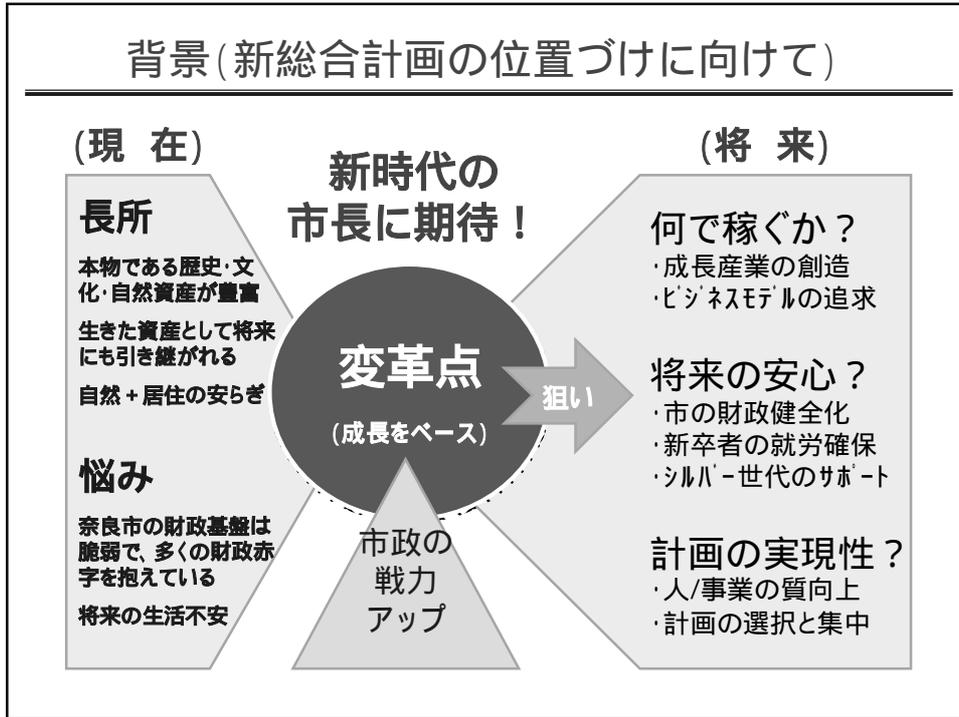
『新しい事業ビジネスモデルの創造で
成長と安心のまちづくりを実現する』



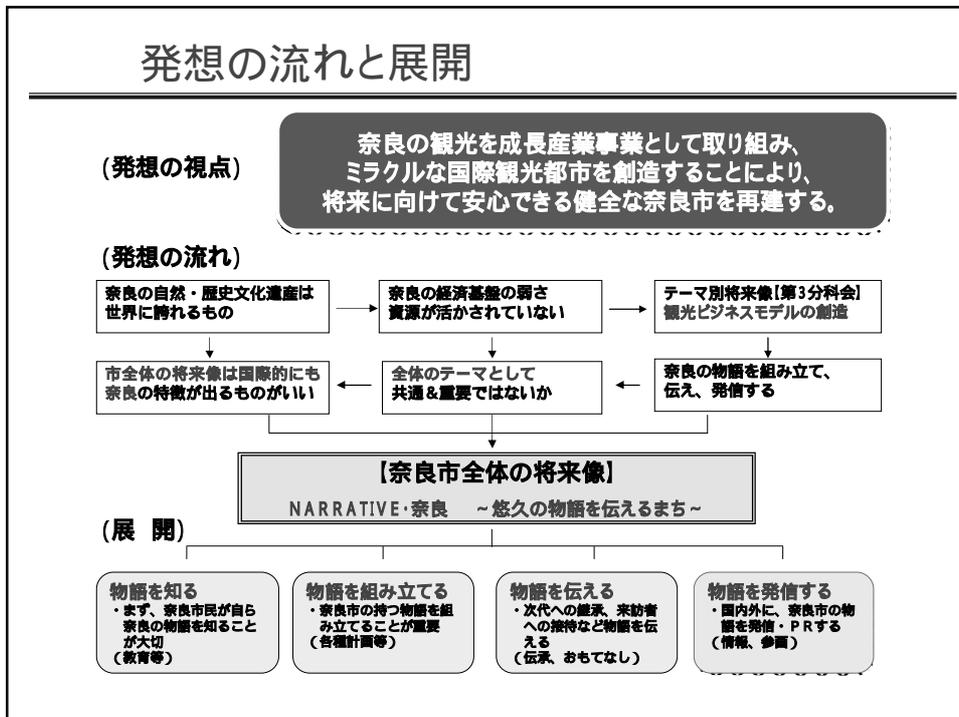
背景(奈良市全体の将来像の設定根拠)



背景(新総合計画の位置づけに向けて)



発想の流れと展開



第4分科会が考える

市全体の将来像

アダルシュ・シャルマ、 岡本 胤継、
奥村 麻希子、北 良夫、 小島 道子、
笹部 和男、 高松 典正、宮本 郁江、
森口 哲也、 山本 素世

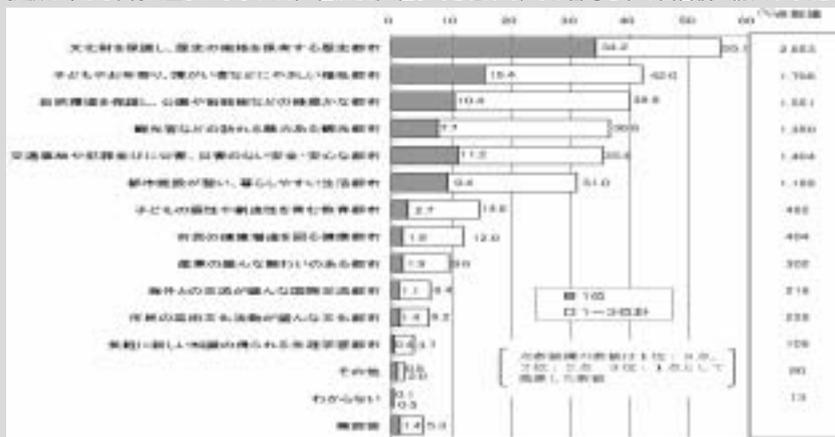
奈良市全体の将来像

『世代を超えて
力を出しあい
未来につなげる
古都奈良』

背景(奈良市全体の将来像の設定根拠)

市民意識調査の結果

問1 あなたは、今後、長期を展望した上で、奈良市がどのような市になることが望ましいと思われませんか。次の選択肢の中から、特に望まれるものの第1位から第3位までを選んで、その番号を下の回答欄に記入してください。



(奈良市民意識調査 平成21年8月実施)

背景(奈良市全体の将来像の設定根拠)

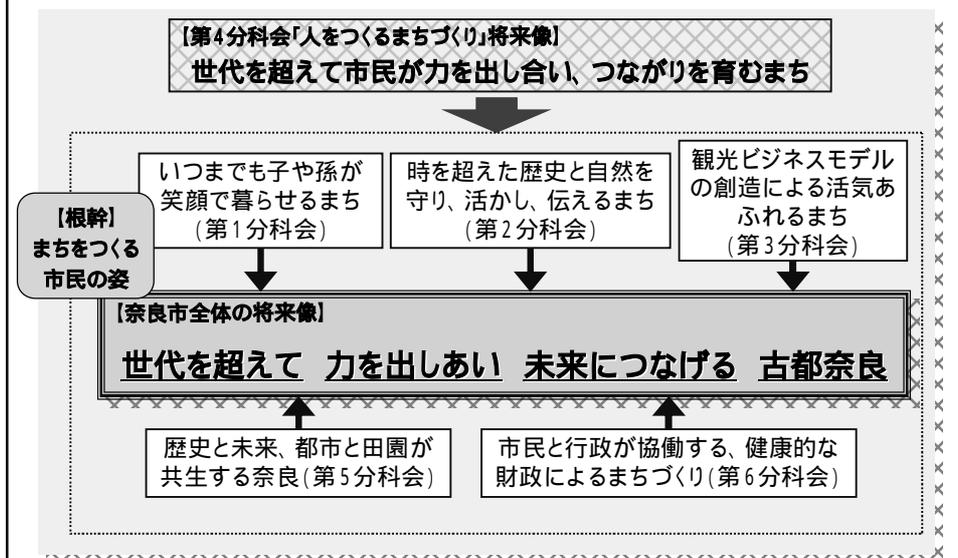
市民の望む将来像

- 1位 文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市 (55.1%)
- 2位 子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市 (42.0%)
- 3位 自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市 (39.9%)
- 4位 観光客などの訪れる魅力ある観光都市 (36.6%)
- 5位 交通事故や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市 (35.4%)
- 6位 都市施設が整い、暮らしやすい生活都市 (31.0%)

望ましい都市像の実現にむけて

- ・あらゆる世代の市民が力を出し合い、助け合う姿勢が大切
- ・市民が、未来に夢と希望を持って、先人から受け継いだ古都奈良を次の世代につなげていく
- ・このような市民の姿が、奈良市全体の将来像を支える根幹をなす

各テーマ別将来像を考慮



奈良市全体の将来像

『世代を超えて
力を出し合い
未来につなげる
古都奈良』

第5分科会が考える

市全体の将来像

北浦 由香、北野 剛人、サマンペレラ、
四反田 喬典、田北 ますみ、反田 博俊、
中西 輝、濱 恵介、松永 洋介

奈良市全体の将来像

『持続可能な
環境古都・奈良』

奈良市全体の将来像を考えた理由

テーマ別将来像

- ◆過去・現在・未来の継続性 『持続可能性』 (時間軸)
- ◆人工と自然が調和 『環境共生』 (空間軸)



『歴史と未来、都市と田園が共生する奈良』

市全体将来像

『持続可能な環境古都・奈良』

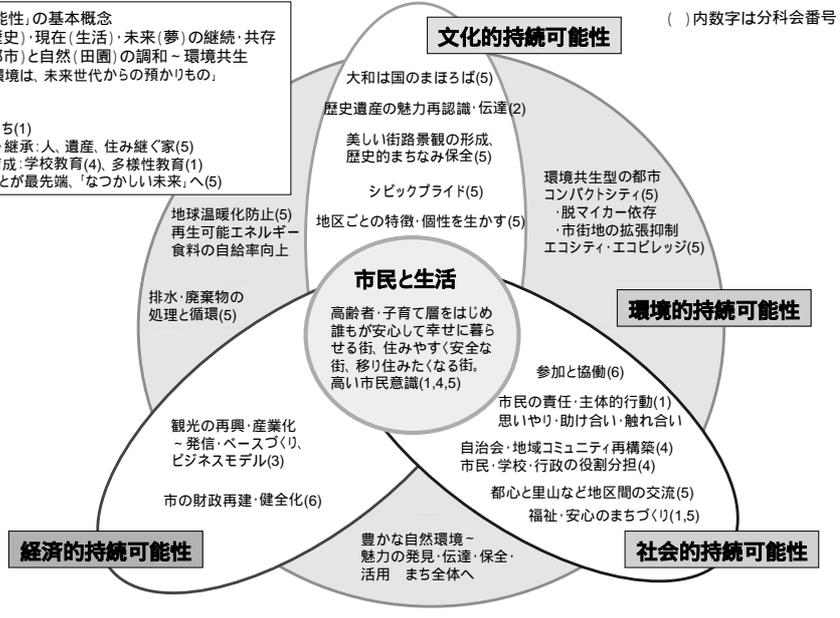
他分科会での検討

奈良市の将来都市像「持続可能な環境古都・奈良」の概念図

「持続可能性」の基本概念
過去(歴史)・現在(生活)・未来(夢)の継続・共存
人工(都市)と自然(田園)の調和・環境共生
「都市・環境は、未来世代からの預かりもの」

共通項目

- 平和のまち(1)
- つながり・継承:人、遺産、住み継ぐ家(5)
- 次世代育成:学校教育(4)、多様性教育(1)
- 遅れたことが最先端、「なつかしい未来」へ(5)



奈良市全体の将来像

『持続可能な
環境古都・奈良』

第6分科会が考える

市全体の将来像

植田 正博、武村 俊宏、多田 充朗、
田中 保夫、村田 勝彦、元島 満義、
渡邊 新一

奈良市全体の将来像

『歴史(とき)をつなぐ
国際観光都市』

奈良市全体の将来像を考えた理由

歴史 = 歴史が生み出してきた遺産
歴史、文化の遺産、文教(教育)の継承
奈良市次期総合計画策定基礎調査も加味

歴史 = 時(とき)
歴史・現在・未来をつなぐ(ときのつながり)

市全体
将来像

『歴史(とき)をつなぐ 国際観光都市』

- ・国際化の進展
- ・まちの発展のためには、観光の活性化が必要
- ・「国際文化観光都市」
(奈良国際文化観光都市建設法)

奈良市全体の将来像

『歴史(とき)をつなぐ
国際観光都市』